

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23057

建築物名称	(仮称)新太田ビル新築工事
建築主	(有)太田ホーム 代表取締役 太田 恵子
建築物の所在地	川崎市多摩区生田2丁目653番1 外9筆
設計者氏名、建築士事務所名	須藤 一栄 (株)サビアコーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,509.09㎡
用途	物品販売業を営む店舗、自動車車庫
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	令和7年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要

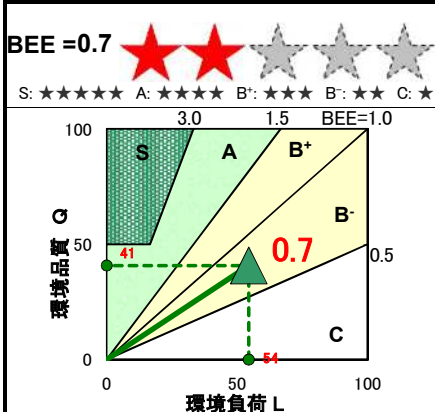
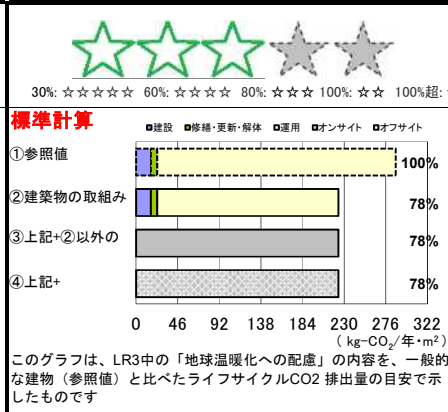
建物名称	(仮称)新太田ビル 新築工事	階数	地上2F
建設地	神奈川県川崎市多摩区生田2丁目653番1 外9番	構造	S造
用途地域	準住居、第1種中高層、準防火地域	平均居住人員	1,338 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 竣工	評価の実施日	2024年3月25日
敷地面積	2,890 m ²	作成者	番場勉
建築面積	2,283 m ²	確認日	2024年4月1日
延床面積	4,509 m ²	確認者	須藤 一栄

1-2 外観

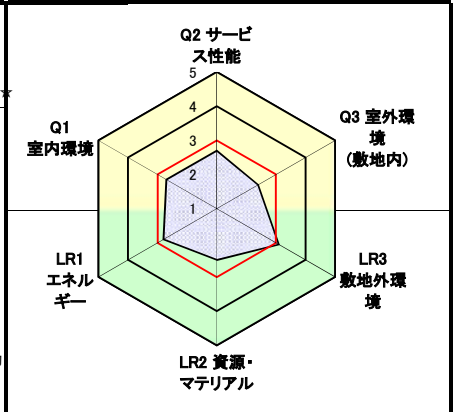
23057



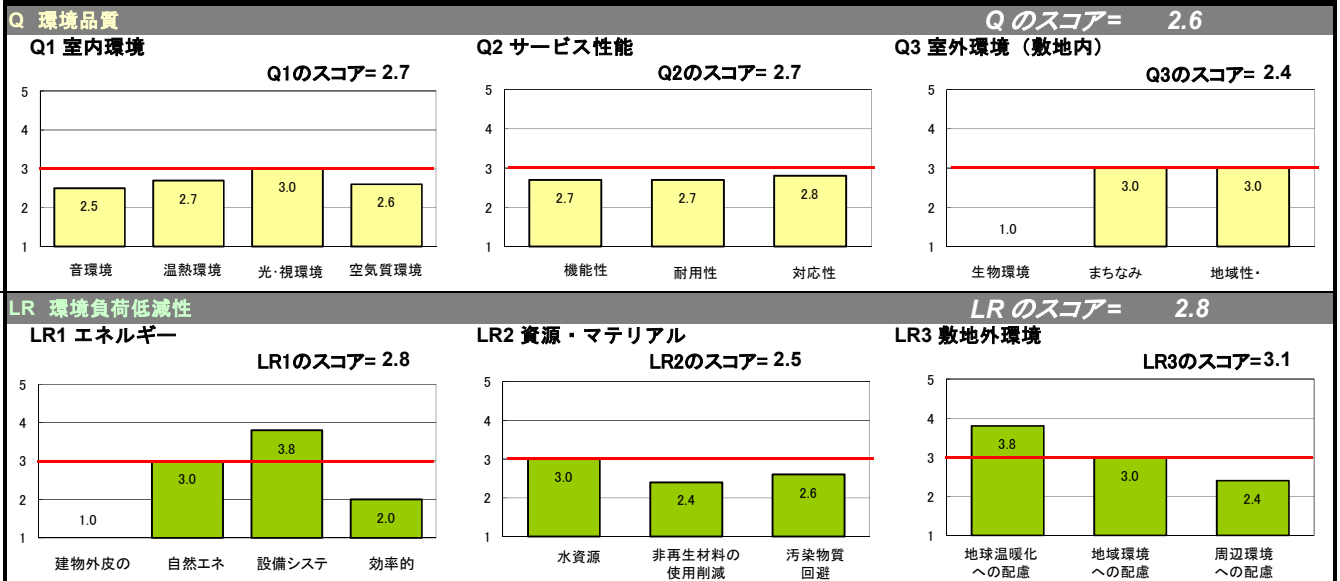
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)新太田ビル 新築工事

23057

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	建物の最高高さを10m以下に抑えると共に		
2 まちなみ・景観への配慮	安らぎが感じられる色彩の外観とした。	2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	十分な緑地を確保することで、地表面温度と地表面近傍の気温等の上昇を抑制した。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	夏期の卓越風向に対する建物見付面積を小さくするよう努めた。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合した緑の量を確保した。		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	中・高木の植栽やピロティ、庇を設けることにより、日陰の形成に努めた。	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.4/4.7	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面の被覆材に配慮した。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の自転車置場、駐車スペースを確保した。荷捌き用車両の駐車スペースを確保した。駐車場出入口は周辺道路の渋滞緩和に配慮し、位置、形状、数を計画した。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	中・高木の植栽やピロティ、庇を設けることにより、日陰の形成に努めた。	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	十分な緑地を確保することで、地表面温度と地表面近傍の気温等の上昇を抑制した。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面の被覆材に配慮した。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.6

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.36		-	2.7
1 音環境						2.5	0.15		-	2.5
1.1 室内騒音レベル					—	2.4	0.40	-	-	
1.2 遮音					—	3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					—	3.0	0.85	-	-	
2 界壁遮音性能					—	3.0	0.15	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	3.0	-	-	-	
1.3 吸音					—	1.7	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御					—	2.7	0.50	-	-	
1 室温		W			—	2.4	0.45	-	-	
2 外皮性能					—	3.0	0.20	-	-	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御					—	2.4	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用					—	3.0	0.43	-	-	
1 昼光率					—	3.0	0.22	-	-	
2 方位別開口					—	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.78	-	-	
3.2 グレア対策					—	3.0	0.11	-	-	
1 昼光制御		W			—	3.0	1.00	-	-	
3.3 照度					—	3.0	0.06	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.41	-	-	
4 空気質環境						2.6	0.25	-	-	2.6
4.1 発生源対策					—	3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					—	3.0	1.00	-	-	
4.2 換気					—	3.0	0.30	-	-	
1 換気量					—	3.0	0.44	-	-	
2 自然換気性能					—	3.0	0.12	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.44	-	-	
4.3 運用管理					—	1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					—	1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						2.7	0.40	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					—	3.0	0.12	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	0.12	-	-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.75	-	-	
1.2 心理性・快適性					A-14断面図より指定の高さを満たす。	2.5	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					—	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース					—	2.0	0.33	-	-	
3 内装計画					—	1.7	0.33	-	-	
1.3 維持管理					—	2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				R	—	2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				R	—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				R	—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				R	—	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R	—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R	—	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				R	—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	1.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									2.8	0.30	-	-	2.8	
	3.1 空間のゆとり									3.4	0.30	-	-		
	1 階高のゆとり								A-14断面図より指定部分の階高を満たす。	5.0	0.60	-	-		
	2 空間の形状・自由さ								-	1.0	0.40	-	-		
	3.2 荷重のゆとり								-	2.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性								-	3.0	0.40	-	-		
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.34	-	-	2.4	
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮									-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	2.8	
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	2.8	
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	-	1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用					W			H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	自動調光機能を有する照明設備を採用。	3.8	0.50	-	-	3.8
4	効率的運用									-	2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価									-	2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価									-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	2.5	
1	水資源保護					W			R	-	3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水									-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無									-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無									-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									-	2.4	0.60	-	-	2.4
	2.1 材料使用量の削減					W			R	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W			R	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W			R	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									-	2.6	0.20	-	-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									-	2.5	0.70	-	-	
	1 消火剤					W				-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W				-	2.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W				CO2冷媒冷凍機	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	3.1	
1	地球温暖化への配慮					W				自動調光機能を有する照明設備を採用。	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮									-	3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止									-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									-	3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減								R	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制								R	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制								R	駐車場等の配置について、各種行政と協議	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制								R	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									-	2.4	0.33	-	-	2.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									-	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音									-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動									-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭									-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									-	1.6	0.40	-	-	
	1 風害の抑制									-	1.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制									-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制									-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									-	3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	2.0			－	－	－	○	－	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	1.0		－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		－	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	－	－	－	○	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	－	－	－	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	－		－	－	－	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0		－	－	1.0	－	－	－	1.0	－	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	－	－	－	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	－	－	－	1.0	1.0	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		－	－	1.0	3.0	2.0	－	－	－	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－				－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		－	－	1.0	3.0	3.0	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	－	1.0	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		－	1.0	1.0	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(－		窓の日射熱取得率(η)－	
U値(W/m2K)	窓システム－	屋根 2.0	外壁－
住戸部分システムU値－	外皮UA値－	ηAC－	ηAH－
屋光率	1.5%		
自然換気有効開口比	3.3%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ / 人	病床	.0㎡ / 床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	3.3m	m				
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	4.3 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	－ N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	123%	建物緑化指数	1%
空地率	21%	水平投影面積率	15%
地表面対策面積率	32%	舗装面積率	13%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	1.17	所熱等性能等級	等級2 相当
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%
		採光を満たす住戸数	80.0%
		通風を満たす教室数	80.0%
		通風を満たす住戸数	80.0%
BPI/BPI _m	非住宅 0.76	住宅	－ 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%
特定調達品E	－
エコマーク商品	－
自治体指定の特定品目等	－
使用比率	0.0%
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(C	0 地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(C	0 地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(C	0 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	72%	棟間隔指標Rw	0.87
地表面対策面積率	54.0%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積Sb	757㎡	越風向と直交する最大敷地幅Ws	85.37 m
基準高さHb	12.25 m		
緑地	340㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		